

宮城大学との連携協力事業がスタートします

宮城大学キャンパスが大崎市へやってくる



宮城大学との連携協力に関する協定書の調印（3月22日宮城大学）

7月から大崎市を会場に「宮城大学移動開放講座」を開講します。

これは3月22日に宮城大学を会場に調印された「宮城大学と大崎市の連携協力に関する協定書」による連携協力事業の第1号として開催するものです。

多くの皆さんの参加をお待ちしています。



都市の人たちの憧れ 農村生活

仙台・宮城デスティネーションキャンペーンに向けて

まず「あるもの探し」を

私は、これまでたくさん成功事例、失敗事例を見てきました。そして、成功するために、「進行管理をしっかりと行う」ことが大切であることを知りました。

第一ステップは、地域の住民が「お客さんに来てもらいたい」と思うかどうかです。「うちはこのままでいいよ。間に合っているから」という考えもあり、それも一つの生き方です。お客さんに来ていただきたいと思うかどうかは大事な確認事項です。

それから、「無いものねだり」ではなく、自分の周りの「あるもの探し」をしてみようということ。自らが立ち上がり、まずは「あるもの探し」からしていくことです。

第二ステップになると必ず行政との関係が出てきます。組織化しないと長続きしませんから、法人化のための技術的な支援が必要です。

第三ステップになると、持続的な組織ができあがります。こうなると行政の補助金をあてにしません。この段階になると、ガイドラインとかルールや認証などの安定した組織の基礎固めが必要です。

平成七年に設立された長野県の南信州観光公社。ここは

体験教育旅行、いわゆるグリーンツーリズムを行っており、今や四万六千人の利用者がいます。ここは飯田、下伊那の全ての自治体が出資しています。株式会社ですので配当金を出しています。こうなれば本物です。

最終的には大崎市の各地域にもこうした組織が誕生してほしいと思っています。

最大のチャンス到来  
地域を元気にしよう

平成二十年十月から十二月まで「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」が開催され、今年はプレキャンペーンが行われます。全国から大勢の人が宮城県そして大崎市を訪れる情報発信の最大のチャンスです。

このキャンペーンは、決して観光だけのものではありません。一過性のものでありませぬ。住民が地域の良さを確認し、そのうえで訪れた人との交流を広げる。さらに交流の中から地域をより元気にしていこうというものです。

大崎市には、元気な団体がたくさんあるようです。皆さん「あるもの探し」からまずは始めてみませんか。そこに地域を元気にするため皆さんのヒントがあるのです。

宮城大学との連携協力に  
よむおはなすの推進

宮城大学との連携協力に関する協定は、昨年十月に大崎合同庁舎を会場として開催された「宮城大学開学十周年記念地域シンポジウム」が契機となり、それぞれが蓄積する情報や資源を有効に活用し、合併したばかりの大崎市の地域活性化と、宮城大学における教育研究活動の振興を図ることを目的に協議が進められ、三月二十二日に協定書の調印式が行われました。

協定書の内容は、人材育成や文化振興、産業振興、まちづくり、健康・医療・福祉などの八項目を連携協力するもので、期間は協定締結日から四年間です。なお、四年が経過し、お互い申し入れがない場合は、さらに協定期間が一年ごとに更新されます。

今回の協定は、宮城大学との連携・協定第一号となります。宮城大学の教育研究資源や人材などを活用することで、大崎市の産業振興や人材育成など、個性豊かで生き生きとしたまちづくりが推進されることが期待されます。

教育研究資源と人材

宮城大学は宮城県初の県立四年制大学として平成九年に

市長コラム  
天・地・人



あだ  
仇討ちまんじゅうとの出逢い

北海道・東北ブロック簡易水道協議会の大会長を務めた白石市で「仇討ちまんじゅう」に出逢いました。

中心市街地の賑わいづくり研究会が、地域PRや特産品販売の企画のために製品化した中の一品で、企画の基になった物語は「奥州白石ばなし」として、歌舞伎や浄瑠璃の題材にもなった実話伝説です。一箱六個入り、一つだけ「仇討ち」の激辛まんじゅうが入っています。遊び心がとても気に入り、五パックお土産に買い、秘書課の昼休みや宴会で、一・二・三でガブツと。数秒後に「辛い！」見事に「仇討ち」？

おもしろいお土産を発見したと同時に、目からウロコ！これからの観光戦略を開眼した思いでした。観光産業は二十一世紀のリーディング産業と言われています。観光にかかわる産業のすそ野は広く、旅行消費

額は二十四兆円、生産波及効果五十五兆円、雇用創出効果四百六十九万人、税収効果五兆円の魅力ある産業です。また、人口減少時代へ向かう中で、二十万都市への挑戦を旗印にする本市にとつては、交流人口を増やす有望な地域振興策でもあります。

大崎市は、日本一の温泉泉質や豊富な食材があり、多彩な四季感と日本の美しい原風景も数多くあります。さらには、伊達政宗、徳川家康、松尾芭蕉、源義経、千葉周作、小野小町など、埋もれている壮大な伝説や歴史絵巻もあります。

素材も資源も十分にありませぬ。あとはやる気と情熱です。仇討ちまんじゅうを越えるストーリーと仕掛けに知恵を出し、明秋のデスティネーションキャンペーンに向けて、観光都市大崎を創造してまいります。

大崎市長 伊藤康志

日時	テーマ・講師
7月8日(日) 13:30 ～16:00	開講式 「地域の価値を高めるデザインの力」 事業構想学部准教授 日原 広一 氏
8月11日(土) 14:00 ～16:00	「地方中堅都市におけるIT活用と活性化」 事業構想学部教授 梶 功夫 氏
9月1日(土) 14:00 ～16:00	「暮らしに生かそう認知症予防のための音楽療法」 看護学部教授 佐治 順子 氏
12月15日(土) 14:00 ～16:00	「子育て期の家族関係」 看護学部教授 塩野 悦子 氏
2月16日(土) 14:00 ～16:00	「消費者の視線・行動からマーケティングを考える～おおさきブランド確立にむけて～」 食産業学部准教授 清野 誠喜 氏
3月8日(土) 13:30 ～16:00	「おおさき耕土の水利とその活用」 閉講式 食産業学部教授 加藤 徹 氏

会場：大崎生涯学習センター

開学し、ホスピタリティ(人への温かい思いやり)とアメニティ(狭い生活環境)、「高度な実学に地域貢献」、「地域に根ざし世界に開かれた大学」を理念に、これまで多くの優秀な人材を地域社会に輩出してきました。看護学部、事業構想学部、食産業学部で構成され、優秀な教授陣を擁する勉学環境とサポート体制は県内外から高い評価を得ています。

市ではこれまでも、おおさきブランド戦略会議「飛翔会議」をはじめ、行政改革推進委員会や都市計画審議会など、新たなまちづくりに宮城大学の協力をいただけてきました。

移動開放講座がはじまります  
連携事業の第一号である今回の移動開放講座は、大崎市

問合わせ・申し込み  
政策課政策企画担当  
☎ 2129 22427  
FAX 2129 22427

募集期間 六月一日(金)～六月二十二日(金)

対象 市民または大崎市内へ通勤・通学している人

定員 五十人(先着順。定員になり次第締め切ります)

受講料 一千元  
(六テーマ/資料代含む)

※各テーマ単位に受講する場合は一テーマ五百円。

申し込み 電話またはファックスで申し込み。ファックスで申し込む場合は、郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記すること。

の現状を踏まえ、まちづくりのヒントとなる題材をテーマに、七月から六回シリーズで開催します。